

登って眺めて湯つたり

がん患者の会 温泉など楽しむ

がん患者と家族の会「ラポールの会」(土浦市、野本篤志代表)は14日、常陸太田市諸沢の「三太の湯」へのツアーを実施した。体を温めて免疫力を高め、がんと闘える体を目ざそうと、初めに貸切バスを使った一行は、常盤道日立南太田



西金砂神社の長く急な石段では皆汗ばんだ
=常陸太田市上宮河内町の西金砂神社

インターから、水戸光圀の隠居所の西山荘、72年に一度の磯出し神事で知られる西金砂神社を経て、同湯を目指した。

神経痛や関節痛、慢性消化器病などへの効能をつたうアルカリ単純温泉の三太の湯では、多数の客に交じってゆったりとした時間を味わった。露天風呂につかって周囲の山々の紅葉を楽しんだ人も。

山深く分け入って到着した西金砂神社では、本殿への長い石段に続き、奥の院へは急な石段がさらに続く。手術で片肺になったという女性もゆっくりと踏みしめながら頂上に到着。奥の院西方の景観をしばらく楽しんだ。

ヒノキの香り高い本殿の前では、スギの太木に背をあて、「帯状疱疹が治りますように」とつぶやく姿もあった。

「病気の人たちと一緒にいろいろ回れて良かった」「楽しい情報を得られたし、神社は森林浴みたいでリフレッシュできた」「あの階段は大変だったけど温泉で疲れがとれた」「空気が良かった。機会があればまた参加したい」「いいもの食べてしゃべったり歩いたりしてれば病気もきつと治る」と、参加者はみな笑顔。野本さんは「月1回の交流サロンとはまた違う長い時間を一緒に過ごせて、互いに心の交流ができたのでは。五感で楽しめて自然治療力が上がったと思う」と話した。「ラポールの会」の問い合わせは、野本さん(電話

090・4548・2004
6午後3時以降)まで。
(赤嶺谷子)